

第5回 八尾市廃棄物減量等推進審議会 議事要旨

【日 時】平成19年12月7日（金）午前10時～正午

【場 所】八尾市役所 本館6階 研修室

【出席委員】吉田会長、石垣副会長

大野委員、藤林委員

佐郷委員、鈴木委員、中西委員、美馬委員、川田委員、松村委員

森本委員、榊井委員

土井委員、岩阪委員、笠原委員、水野委員、北山委員、

【欠席委員】花嶋委員、二宮委員、倉田委員、大西委員

【事務局】竹田課長、川西課長補佐、福井係長、高戸主査（資源循環課）

三田課長（環境総務課）、吉岡課長（環境事業課）、牧野課長（環境施設課）

【傍聴席】なし

【議事要旨】（注：発言内容は、要約して掲載しています。）

（1）家庭ごみに関するアンケート調査（速報版）について

事務局による資料No.26の説明

○委員

アンケートの回答者が、60歳代に偏りすぎではないか。若い人の考え方も入れるべきと思う。幅広い年代の人に実施すればアンケートの集計結果が変わってくるはず。働いていてスーパーで買い物をしてリサイクルを一番考えなければいけない人の意見が反映されていない。

○事務局

アンケート調査の集計結果の分析に関しては、もう少しお時間をいただきたい。なお、全体に高い年齢層の方が多いたのですが、家庭の中で一番ごみに携わっている人にアンケートに答えていただいています。家族で話し合っただけで回答されていると思われるので、ある程度若い人の考え方も反映されているのではないかと考えています。

アンケートがごみ減量の方向性すべてではなく、この結果を参考としていただき、みなさんのご意見をお聞かせいただきたい。

○会長

幅広い年齢層の方に万遍なく回答いただくようにした方がいいのでは。

○事務局

アンケート結果は、1つの参考としていただくとつもりです。地域の方々の声を反映しながら、ここにいらっしゃる方で審議していただきたいと考えています。

○会 長

アンケートを答えていただくことが、若年者に対する啓発にもなるのではないかと。若い人の考えを審議会に反映していくというよりも、若い年齢層のごみに対する考え方がアンケート対象とすることにより変わるようになればよいと思う。

○委 員

ごみ指定袋配付の費用が1億円かかっていると決算委員会で聞いている。余っている袋をどのように回収して有効に使っているのかご説明いただきたい。

○事務局

確かに、埋立ごみ・複雑ごみを中心に袋が余っていると聞いています。余剰袋は各出張所で回収し、再配付しています。

また、既に議会にて報告しておりますが、現在、八尾市では事務事業の見直しを進めております。その一つとして、ごみ袋についても、来年4月からお使いいただく分につきましては、資源袋を14枚から12枚へ、埋立袋を6枚から3枚へ、複雑袋を6枚から3枚に配付枚数を減らすこととしました。なお、不足する方には、出張所か本庁でごみ袋をお渡しします。

○委 員

配布時にどの種類のごみ袋が余っているのか、実態調査をするべきだと思う。自治会に任せるのではなく、市側と自治会が相談しながら、無駄をなくす努力をしていただきたい。

○会 長

何枚必要か聞いて、その枚数だけ渡すことはできないのか。

○事務局

指定袋を渡すことによって、その中にごみを収めていただく、つまり分別とともに、なるべく配付枚数に合わせるように、減量の努力もしていただきたいと考えております。また、自治振興委員の皆様には、既に多大な労力をいただいて配付しています。

○委 員

資源ごみは、市の収集職員以外に自転車やリヤカーで持っていってしまう人がいるが、市として対応を考えているのか。

○事務局

この件に関しましては、隣接の市町村でも対応に苦慮しています。3年程前に条例を改正して、資源ごみの所有権を市が主張できるようにはなっております。しかし、その収入で生計を立てている方がいらっしゃいます。府の社会福祉協議会とも相談しておりますが、総合的な福祉の観点からの措置も必要だということで、強権の発動はしておりません。市民から苦情の声があがったら問題にしますが、最近はある程度のルール化ができており、不要な缶を放置したままでなく、袋に戻していくようになっています。

○委員

現在、建替工事をしている廃棄物処理センターは非常に重要な施設と市民が考えていることがわかるが、完成予定日はいつか。

○事務局

平成21年3月に完成し、4月から稼働します。

○委員

この施設を建設するにあたって、住民に対する事前説明が足りないという意見が聞かれた。地域のリサイクル活動を推進するなど有用な施設にして欲しい。

私は奈良の桜井市、橿原市などのリサイクルセンターの見学をしたが、不用品の交換や販売を行っていた。これは市民の協力なくしてはできない。ごみ減量の問題について勉強する場として活用して欲しい。ハード面とソフト面が両輪のごとく、市がしっかり施策を打ち出して欲しい。

○事務局

新しいリサイクルセンターの学習施設をどう活用するかについては、この審議会で皆様のご意見を賜りたいと考えております。なお、皆様の前に展示してあるものは、ペットボトルのラベルとキャップを剥がして、圧縮梱包したものです。ご参考までにご覧下さい。

○委員

指定袋の件ですが、家族数を考慮して配付枚数を決定して欲しい。

アンケートの「その他」の備考欄に記入されている意見を知りたい。その内容も考慮してアンケート結果を利用して欲しい。

前に展示してあるペットボトルの圧縮前の量はどれくらいか。

○事務局

アンケート調査の集計はまだ途中ですので、その他の意見も含めきっちり分析し、また、円グラフにするなど見やすい形で整理していきたいと考えております。廃棄物処理センターの活動内容については、来年早々に皆様のご意見を伺うつもりです。指定袋については、来年4月から新しい試みが始まります。なお、前においてあるペットボトルは20kgです。

○委員

指定袋の配付数を4月から見直す件ですが、自治振興委員の各地区委員会で11月に説明があった。その時の反響はどうだったか聞かせていただきたい。埋立ごみと複雑ごみの2つが一緒になると、2か月もごみを家庭に置いていなければならない。この点について不満が出たのではないか。

○事務局

今まで、直に不満のお電話いただいております。ご心配をおかけしております。ごみ袋が足りないときは、速やかに配付できるよう、体制を整えて実施したいと考えています。

○委員

自治振興委員会の会議で、その件についてはきちんと説明されていた。一般主婦の立場からいうと、埋立ごみと複雑のごみ袋はいつも余っているので、袋の配付数を減らすことについては、問題はないと思われる。

町会としては、半年に一回、班長さんに世帯構成員数を確認してもらって家族数増減にあわせて配付枚数の調整している。自治振興委員会はそういう努力している。

○委員

この前の審議会でも申し上げましたが、町会の組織が縦横きっちりできている地域はいいが、そうでないところ（主に集合住宅）は若い方が多い。若い人の意見が把握できていない。実態調査をしないと、ごみ袋が余っているのか足りないのか、余剰の袋は放置されているのかわからない。ごみ袋は税金で賄われているのだから、用途をきっちり把握すべきである。

○委員

アンケートの回答者は60歳代以上がほとんどである。また、八尾市自治振興会の組織率は80%を割っている。あとの20%（ほとんどが若年層）の人には、市の制度改正等が伝わらない。マンション、ハイツなどの入居者は自治会に入ってくれない。

ごみ袋は市役所に行けば無料で配付されているので、自治会に入らない人も不自由を感じない。ごみのことに関しては、若い人は全く無関心である。我々は本当に困っていることを市は理解して欲しい。

○委員

行政や自治振興委員の方の手が届かないところをどうするか。行政・市民・事業者のネットワークづくりをきちんとしないといけない。ごみ袋の配付状況の把握も80%は確認できているが、後の20%は未確認である。それが不法投棄につながっている。行政としてどうするか、考えて欲しい。また、八尾市では自治振興委員会の尽力のおかげで5種分別がうまくいっているが、事業所のごみ排出の実態調査は4割くらいしかできていない。

○委員

アンケート調査について何を審議するのか。アンケートの一つ一つの項目を審議するのか、調査自体について審議するのか明確にして欲しい。

○会長

もう一度、今回の調査を補足する形で若年者に対するアンケート調査を行うことを検討してはどうか。アンケート調査は啓発も兼ねる。例えば「指定袋の配付費用に1億円かかっている」ことを質問の中で触れながら「各家庭での使用状況」について聞けば、インパクトが全然違うのではないか。

(2) その他プラスチック製容器包装及びペットボトルの分別収集について（継続）

事務局による資料No.27の説明

○会 長

資料No. 27にあるように、ペットボトル1トン当たり27,825円の収入があるのですね

○事務局

ここから事務経費等を差し引いた額になるので、全額とはなりません。なお、ペットボトルは、現在は拠点回収ですので、出張所から週1回、回収しています。

○会 長

新しい施設で処理するようになると、収支はどうなるのか。また、収集費用・ランニングコストはいくらかかるか。

○事務局

今度建設される施設は、プラスチック製容器包装ですと耐用年数30年として、建物にかかる費用は年間約500万円、処理費用が3,004円／トンかかります。収集コストを除けば、今の焼却よりコスト削減ができます。ただ、収集コストについては、現状の直営の職員で収集体制を組めるならゼロと見込めるかも知れませんが、現在は未確定です。

なお、訂正ですが、前に展示してあるのは、600個のペットボトルを約6分の1に圧縮したもので、約15kg程度あります。

○委 員

今は出張所だけですが、拠点回収の場所を増やすことは考えているか。

○事務局

現在は、拠点回収は出張所で行い、スーパーでは協議会方式で店頭回収をしています。今後、収集品目が増えていく中で、現行の体制では無理が出てくると思われしますので、拠点は増やしていくつもりです。皆様のご理解を得ながら、順次考えていきます。

○委 員

収集コストの話が出たので、収集職員の立場から発言させてもらいます。

現行の職員の体制で回収すれば、人件費はかからないとのことだが、可燃ごみのように個別収集するとなると人手がいるので、体制を整えるのが難しいと思われる。本格的に市が回収する場合は、基本的には拠点の拡大がベストであると現場では考えている。

5種分別から、プラスチック製容器包装、ペットボトルの2品目が少なくとも増えるということで、工夫しながら回収の段取りを考えているが、市民の方々の大きなお力添えがなければ厳しい。現場で、できる限りコストがかからないようにやっていきたい。

○会 長

公園等にペットボトルの収集箱をつくるのですか。

○事務局

回収の拠点は増やしていきたいと考えていますが、公園では基本にごみは持ち帰っていただき、ごみ箱は減らすという方針もありますので、今後関係部局と協議していきます。

(3) 市民・事業者・行政の役割分担について（継続）

事務局よる資料No.29及び資料No.30の説明

○会 長

まず、説明した資料の内容に関してご質問を受けまして、それから粗大ごみの有料化の是非について検討いただきたい。

○委 員

大阪市は有料化導入前の駆け込み排出がすごくて苦勞されたと思うが、どれくらい前から市民に周知したのか。導入がスムーズにいくかどうか、周知期間が争点になると思う。

○事務局

その点は、まだ大阪市に確認しておりません。また、議論を尽くしていくつもりですが、有料化を実施する場合、周知徹底の期間は十分取る予定をしております。

○副会長

収集方式は、品目別と大きさ別があるが、どちらの方が費用がかかるのか、教えて欲しい。

○事務局

まだ他市におけるコスト分析は出来ていません。

○会 長

有料にしたら、粗大ごみの排出が減るだろうという高圧的な態度でなく、ごみの処理に大変なお金がかかって市の財政が逼迫しているので、市民のご理解をいただきたいという方向で有料化の導入を進めていけばいいのではないか。

○事務局

ごみ処理の現状をご理解いただく上で、資料No.31・32の説明をします。なお、ごみの有料化導入に際しては、条例改正の必要もありますので、周知期間は十分とります。

事務局による資料No.31及び資料No.32の説明

○会 長

有料化すると財政的にかなり効果があるということを市民に示すことが大事と考える。本日は、もう時間があまりないので、次回の審議会で引続き有料化についての議論をしていきたい。

○委 員

八尾市消費問題研究会で環境に対する取り組みについてのアンケート調査をした結果、家庭ごみの有料化については肯定派が反対派を5%ほど上回っている。

○委 員

ごみ処理は無料で行うのが基本と考えているが、昨今の社会的な流れをみても有料化は止むを得ないと思われる。財政的な問題だけで有料化導入でなく、どうすればごみを出さなくてすむか、また、不要なものをリサイクルしていく仕組みをつくるということを考えることが大切と考える。

○会 長

有料化で得た原資を活用して、粗大ごみの中で、まだ使用できるものは処理センターに陳列して購入できるようにするなど、リサイクルする仕組みをつくるために使うべきと考える。

○委 員

基本的にはごみ有料化は反対だが、世間の流れは有料化に向かっていることを自覚している。一つ提案だが、志紀の府営住宅では幅広い年齢層の人が住んでいるので、そういうところでアンケートを実施して意見を把握して欲しい。

○会 長

幅広い年齢層に対するアンケートを追加配布して欲しい。

○事務局

アンケート調査の追加配布を検討します。なお、本審議会では、今後の将来的なごみ施策の計画をつくっていただきたいと考えており、アンケート調査結果は、そのための参考にさせていただきたいと考えております。この審議会では、来年の春までに一定の結論を出していただきたいと考えています。

○会 長

次回の審議会までに、アンケート調査票の再配布をして、結果を発表して欲しい。

○委 員

審議する内容が多い割に審議会の回数が少ないのではないかと。重要な案件には十分に時間をかけて審議していきたい。

○事務局

今後のごみ施策のあり方を含め、将来的に市民・行政・事業者の役割分担のあり方を考えていくという大きな観点からご審議をいただきたいと考えています。

○委 員

今回は、若い方のアンケートの結果も踏まえて、本格的に粗大ごみの有料化について審議していきたいと思います。

5. その他

○事務局

次回の審議会日程は、2月7日(木)もしくは2月8日(金) 午前10時を中心に調整して、ご連絡させていただきます。